

【入選】

水と共に生きる

宮城県仙台二華中学校
一年 金谷章 汰

僕たちの暮らしで欠かせないものといえば、「水」です。水は様々な用途で使われます。僕が思い浮かべる用途の例は、飲料用や手洗い、シャワーです。そんな大切な資源である水も時には、洪水や津波など、命を脅かす存在にもなります。例えば、二〇一一年に起きた東日本大震災では、大きな地震の後に津波が発生し、僕が住んでいる地域でも、多くの人が避難生活を強いられたそうです。

水に脅かされてきた国のうちの一つがオランダです。オランダは、ヨーロッパの西にある小さな国で、国土の約四分の一が海面より低い場所にあります。だから、洪水が起こると土地が水で浸水するかもしれないのです。僕はこれを初めて聞いたときは、「なぜそんなところに人々が住んだのか」と不思議に思いました。しかし、夏休みに出かけた大阪関西万博で話を聞いていくうちに、この疑問が明らかになりました。

オランダでは、風車やポンプを使って海や湖沼の水をくみ出すことで、農業や生活ができる土地を増やしてきました。このような土地を「ポルダー」と呼びます。ポルダーは、水はけが良く、しかも肥よくな土じょうを持つ土地であり、酪農や園芸農業に適しています。オランダには多くのポルダーがあり、オランダの国土の四分の一が海面より低いのは、ポルダーを増やしてきたからだと言われているのです。

また、洪水や高潮による被害を最小限にするために堤防や水門、ダムなどの工夫があります。例えば、「マースランドケリング」という可動式の防潮門があります。通常は開放されており、船が通ることがありますが、コンピュータが高潮の危険を察知すると、自動で巨大なゲートを閉じて、

町の浸水を防ぎます。こうした仕組みは、オランダの「デルタ計画」という高潮から町を守るための計画の一部で、世界でも治水プロジェクトとして高く評価されています。

そして、僕が特に感心したのは、オランダの人々が水を「敵」ではなく、「共に生きるもの」としてとらえていることです。水害が起きるとき、ただ水を遠ざけるのではなく、水とともに生きる道を選んでいるのです。例えば、雨がたくさん降っても町がすぐに浸水しないように、水がたまるような場所を作ったり、水辺に家を浮かべて住んだりする工夫があります。このように、水を防ぐだけでなく、「受け流す」という考え方をともに、自然と調和した暮らしを目指しているのです。

近年、地球温暖化による海面上昇により、水の影響を受ける国が増えてきています。日本でも水害は大きな問題ですが、堤防やダムの整備や洪水ハザードマップの作成、気象予報の発達などにより、被害を少なくするための努力が進められています。また、治水だけでなく、雨水をためて再利用する仕組みや水辺の自然環境を守る取り組みも行われています。日本もすでに、水と上手に共生している国の一つといえると思います。

これからも、僕は水について学び続けたいと思います。水とともに暮らしていく社会をよりよくしていくために、身近なところから自分にできることを続けていきたいです。例えば、ゴミの分別をしたり、排水口に水を流さないようにすることや水を使うときには出しっぱなしにしないようにすることなどです。限りある資源である水を大切に扱うことも水との共生につながっていくと思います。これからも水を大切にしながら、自然と調和して暮らせる未来をつくっていききたいです。